まちの風景

5/12 緑豊かな蓮田で

自然を楽しみながら市内を歩くふるさと水辺ウオークが今年も開催されました。400人を超えるおおぜいの参加者たちが、3キロコースと8キロコースに分かれて市役所を出発。天候にも恵まれ、ときおり吹くすがすがしい風に癒やされながら元荒川や、黒浜沼周辺の目に鮮やかな新緑の中を歩きました。ゴール地点では家族や友人と、抽選を楽しんだり、豚汁を食べてくつろいだりして、穏やかなひとときを過ごしていました。

3キロコースに参加していた、中村ムツ子さんは「毎年参加しています。今日はとても天気がよくて暖かいので、ウオーキングには最適な日ですね。体力的にはまだまだ歩けます」と話し、ゴールへと向かって行きました。

親子でリラックス

親子のスキンシップの一つとして注目されるベビーマッサージ。参加者は助産師のかたにアドバイスをもらいながら、親子での触れ合いを楽しんでいました。和やかな雰囲気でのマッサージにリラックスしつつ、月齢によって異なる育児の体験談などで盛り上がっていました。中島優子さん・蓮菜ちゃんは「気分転換ができてとても楽しかったです」と感想を話してくれました。

楽しく学ぼう講座
「ベビーマッサージ＆友達の輪を広げよう」（5月8日・黒浜保育園子育て支援センター）

地元の野菜を食べよう！

夕市(5月15日・市役所正面玄関付近)

その日に採れた新鮮な野菜が店頭に並ぶ夕市。毎週水曜日に開催され、この日も旬の野菜を買い求めるおおぜいの人でにぎわいました。生産者みずからお勧めの調理法を紹介する場面もありました。農家の石津賢一朗さんは、「これからはトマト、きゅうり、なすなどの夏野菜が旬を迎えます。丹精こめて作った野菜を皆さんに食べてもらいたいです」と話してくれました。

5/22 人間総合科学大学 学生たちの発想が世界で評価

オーストラリア・マカダミア協会主催の国際的な食品開発コンテストで、市と包括協定を結んでいる人間総合科学大学ヘルスフードサイエンス学科の学生チームが最優秀作品賞を受賞しました。今回受賞したのは、非常食として長期保存が可能なマカダミア・レーション・バー。マカダミアナッツのおいしさを生かすだけでなく、日本の伝統食であるそば粉や蓮田産の酒かすなどを材料に用い、栄養価にもこだわりがこめられた作品となっていました。

事後報告会で、近能一真さんは「おいしくないといわれる非常食をおいしく食べられるように材料の配合などを追求しました。チームで賞を頂けてうれしいです」と受賞の喜びを語ってくれました。

（左から）三村裕美さん、谷山遥菜さん、近能一真さん、大橋昂矢さん、大沢萌々香さん

映画の舞台でお散歩

5月13日、はすぴぃが初めて大字高虫の妙楽寺を訪れました。太平洋戦争末期、空襲を避けるため、東京から53人の園児と11人の保母たちが妙楽寺にやって来て疎開保育園が開かれました。疎開保育園での出来事を描いた映画「あの日のオルガン」は2月に全国公開され、7月にはハストピアで蓮田市上映会の開催を控えています。映画の影響もあり、妙楽寺は多くの注目を集め、市内外から人々が訪れています。

ご長寿の秘訣を聞きました

季節の行事や体操などを毎月行っている椿山いきいきサロン。この日は華やかなソーラン節や手踊り、松平健さんのものまねなどを楽しみました。4月に100歳の誕生日を迎えた中村嶺さんは、「毎日3食しっかり食べて、規則正しい生活を心がけています。おかげで大きい病気やけがもなく楽しく皆さんと過ごせています」と話してくれました。

椿山いきいきサロン（4月22日・椿山自治会館）